**平安神宮の庭園**

平安神宮の庭園は四つの庭園で構成されており、それぞれが日本ならではの美学と、異なる時代のデザインの特徴を取り入れています。大きな池や蛇行する小川など、これらの庭園には水が広く使用されています。また、庭園に植えられている数百種類もの花々や植物は、様々な野生生物の生息地となっています。

南の庭園（南神苑）

南神苑は、平安時代（794〜1185年）に着想を得た、狭い曲がりくねった小道や小川がある、古典的な回遊式庭園です。この庭園には八重紅枝垂桜など、古典的な平安時代の文学作品に登場する植物が植えられています。

西の庭園（西神苑）

西神苑は大きな池を中心とした禅宗に着想を得た穏やかな庭園です。この庭園で特徴的なのが、正確に配置された岩により、視線を誘導するデザインになっていることです。西神苑では4月から7月にかけて、アイリス、睡蓮、ツツジが次々に咲きます。

中庭（中神苑）

中神苑は、室町時代（1336～1573）のわびさび（不完全な美しさ）の美学が反映されています。小さな島と飛び石のある大きな池と、お茶や軽食を提供する小さな茶室が特徴です。

東の庭園（東神苑）

東神苑は、江戸時代（1603〜1867）に流行したデザインを用いた、最も壮大な庭園です。京都御所から寄贈された華やかな建造物と、梅や、桜、楓、松などの木がが並ぶ大きな池が特徴です。